

授業改善アンケート

学生評価アンケートを活用した教育方法の改善(良い効果の得られた例)

2019.9.1

授業形態	対象学年	内容
講義	1	基礎教理において、学生が特別に評価しているというものではないが、以下のような授業の取り組みについて学生から評価されることがある。 1) 授業資料の事前公開とファイルのダウンロード 当該授業の前日までに、授業で使用するパワーポイントをクラウド上にアップし、学生PWを使用して自由に閲覧、ダウンロード、印刷できるようにしている。そのため、授業の予習（何をするかの程度）を自然と促すことが出来ていると思われる。実際、授業に資料を自ら印刷してくる学生、授業中にスマホ等の端末を見ながら授業を受ける学生など、効果的に利用されていると思われる。 2) リフレクションシートの活用 授業終了後、毎回、リフレクションシート（YWTシート）を使用して、学生個々に授業の振り返りを促している。記入したリフレクションシートを提出してもらうことにより、教員側は、学生の理解度が高いところや低いところを把握することができ、次の授業に活かすこと（補足など）ができる。また学生側も、自分自身が理解できないところを明記することで次の課題を明らかにすることに役立っていると思われる。 3) ワークシートの活用 本事業は、実際に学生自身で計算することで理解が深まる科目であるため、ワークシート（練習問題）を基本的に毎回実施し、解説等を行っている。2コマ連続の授業であるため、講義に担当する時間、学生自身で作業する時間、解説をする時間を適切に配分している。また、ワークシートの解答例も、上記の資料公開の方法で、当該授業終了後、学生が自由に閲覧できる状況にしている。
講義	1	高校で物理を学習していない学生、苦手意識を持つ学生に物理の内容を理解させるために、以下の工夫をした。 ・まず何を勉強すればよいかを解説する。薬学との関連を随時紹介するとともに、基本的な事項をまとめた自作プリントを活用した。 ・目で見えて理解できるように、動画や映像をできる限り取り入れた。 ・学生によるアンケート結果に基づき、問題演習を積極的に取り入れて、理解を助けるようにした。限られた講義時間内に演習までを消化するのは難しい部分もあるが、問題演習によって講義内容を復習し、確実に身に着けさせる方法については、以後の学生からも評価された。
講義	2	例年、授業内容が“わかりやすい”、“レジュメがわかりやすい”等の評価をいただいております。2年生は大学の勉強によりやく慣れてきた時期であり、本講義のような暗記主体の教科は興味を持たないとなかなか勉強の効率が上がりません。ただ単に、教科書の要点抜粋、重要部分の線引きは一切せずに、学生たちが自分で気づけるようなレジュメを渡し、自分のレジュメを作らせています。具体的には、薬用植物を基原とする生薬を薬用植物園で実際に見学し、漢方で使う植物の薬用部位の標準的な刻み生薬の写真を載せたレジュメを渡します。講義中には、それまで習った刻み生薬の現物に実際に触れ、色を観察し、臭いも感じてもらいます。さらに、2年生の講義として本講義を完結させるのではなく、3年生の生薬学実習につなげるように講義を進めています。暗記が学習の大部分を占める生薬学という講義で実際の生薬を用いることにより、暗記型の講義から理解型の講義（基礎から応用まで）にすることで、学生が率先して学習できる工夫を行っております。
講義	2	<u>学生が評価している点</u> パワーポイントでイラストを使用した解説を行ったため、講義内容が分かりやすいとの意見があった。 <u>学生からの指摘を参考に工夫することによって、授業の改善に繋がった成功例</u> 学生から補講を実施して欲しいとの意見があったが、通常の15回の講義以外に全員対象の講義を実施することは困難なため、全講義の3分の1が終了した時点で講義毎に実施している小テストの成績が振るわない学生から希望者を募り、課外時間に補講として小人数での口頭試問を実施した。その結果、口頭試問の受験者から授業内容の理解が深まったとの意見が得られた。 <u>以前から実施している授業改善策</u> 1 限目に講義を実施するため、以前は遅刻者が多かったが、下記の手順で講義開始時に毎回小テストを実施することにより、遅刻者が減少した。 9:00-直後の小テストに出題する内容（ヒント）の解説（前回の講義内容の復習）。 9:10-小テストの実施。 9:20-小テストの解説。 更に、小テストの類題は定期試験に出題することを伝え、小テスト終了後に試験問題を回収した上で、小テストの解説を行った。その結果、小テストの出題内容を講義資料へ記録する習慣が身につき、集中して講義を聴くようになった。
講義	4	講義科目ですが、knowsレベルの知識の定着とknows howレベルの深い理解を修得できるようにする目的で、2017年度からチーム基盤型学習（TBL）を導入しています。 講義の翌週をTBLとし、前週の講義内容に関するiRAT、gRAT、解説とアピールを経て、模擬症例を用いた応用課題に取り組んでもらっています。実施後のアンケートでは、TBLの導入に対して好意的な意見が多かったため、2018年度からはiRATとgRATの得点を成績の一部としています。
演習	4	演習科目ですが、2019年度は学生の代表者（希望者）によるpH変動試験の実習を組み込み、注射薬の配合変化を目で見てもらい、配合変化のメカニズムとその回避方法についてグループで議論してもらいました。また、教員による説明時に、教員と学生のインタラクティブな環境を構築するため、ババパコメントを導入しました。授業後のアンケートでは、実習を組み込むことで理解が深まったという意見が多くあったほか、ババパコメントの導入に関しては数名を除いて導入に好意的な意見でした。
講義・演習・PBL	4, 6	自身が担当している科目の第1回目の授業において、前年度の授業評価アンケート結果を開示しています。良かった点および改善すべき点を学生と共有し、当該年度の授業においてこれらがきちんと遵守されているかどうか学生にモニターしてもらうことができます。そして当該年度の授業評価アンケートに遵守事項の履行状況を含め、学生から評価を受けることで、PDCAサイクルを回すことができると 생각합니다。 以前から申し上げている通り、授業評価アンケートはすべて公表すべきと考えます。厳しい評価を受けた教員の授業は、学生および教職員によって改善しているかどうか検証すべきです。
演習	4	授業独自に実施したアンケート（記名、記述式）において、学生が評価していると思われるコメントを以下に記す。本演習は、昨年度から実施時期を変更し、やくぶつ動態学の講義花木の後半部分と並行して行い、またチーム基盤型学習（TBL）による演習も導入した。【アンケート省略】以上、演習の実施時期や今回から本格的に導入したTBLについて、概ね学生の評価は高かった。また、他者の意見を聞き入れることで、自身の理解を深めることに繋がっていると思われる。
実習	4	授業独自に実施したアンケート（記名、記述式）において、学生が評価していると思われるコメントを以下に記す。なお、本実習は、昨年度から実施時期を変更し、講義科目の後半部分と並行して行っている。また今年度は、実習最終日に実習のまとめの一環として振り返り作業をTBL様形式で実施した。【アンケート省略】以上、講義科目と並行して実習を実施することにより、授業内容の理解に役立っているものと思われる。講義では理解しづらい理論や現象を視覚化あるいは体験することにより、授業内容との関連付け、イメージ・知識の定着に役立っているものと思われる。